

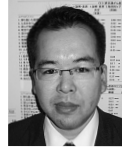
注目! がん看護における最新エビデンス

終末期の化学療法は患者の死亡直前のQOLを改善せず、全身状態 (PS) がよい患者ではむしろQOLを悪化させる。

Prigerson HG, Bao Y, Shah MA, et al. Chemotherapy Use, Performance Status, and Quality of Life at the End of Life. JAMA oncology. Sep 2015; 1 (6) : 778-784.

進行がん患者の場合、化学療法の止め時というのは患者にとっても医療者にとっても大変難しい問題です。臨床でも「この患者さんにまだ化学療法を行うのか」と思う症例を見ることが少なくないでしょう。化学療法の実施の有無を判断する基準の一つは全身状態で、ECOGのPerformance Status (PS) という指標がよく用いられます(表)。がん種やレジメンにもよりますが、一般的にはPSが0~1または0~2が化学療法の適応になることが多いです。

以前にも紹介したTemelらによる早期からの緩和ケアのランダム化試験では、再発転移の診断後、早期から緩和ケアを受けた群の方がQOLが高く、生存期間も長いことが示されました¹⁾。この研究では、両群で化学療法のレジメンの総数は変わらないが、早期から緩和ケアを受けた群の方が死亡前2カ月の間に化学療法を受けた割合が低かったと報告されており(オッズ比=0.47, P=0.05)、終末期に無理な化学療法を行わなかったことがQOLの向上や生存期間の延長につながった



宮下光令 教授

東北大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつりのり:1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

可能性が示唆されています²⁾。

今回紹介するのは、このような終末期の化学療法の是非について、新たな知見を与える論文です。この研究は、Coping with Cancer 研究と呼ばれるアメリカのコホート研究です。対象は2002~2008年にリクルートされた転移を伴い、ファーストラインの化学療法が無効で予後が6カ月以内と推定される終末期がん患者で312人が分析の対象になり、遺族が死亡前の1週間のQOLを評価しました。

この期間中に化学療法を実施した患者は158人(51%)でしたが、化学療法実施群と非実施群で生存期間に差はありませんでした(生存期間の中央値3.8カ月)。図は、調査開始時点での全身状態(PS)別の、化学療法の有無による死亡直前の患者のQOLです。この結果、PS2もしくはPS3の群では、化学療法の実施は死亡直前のQOLと関連せず(P=0.87, P=0.59)、PSが1であった群では化学療法実施群の方が死亡直前のQOLが有意に低いという結果でした(オッズ比0.35, P=0.01)。

進行がん患者に対する化学療法は、延命もしくは症状の緩和を目的にして行います。今回の研究では、延命の効果がなかっただけでなく、むしろ死亡直前のQOLを下げているというショッキングな結果でした。

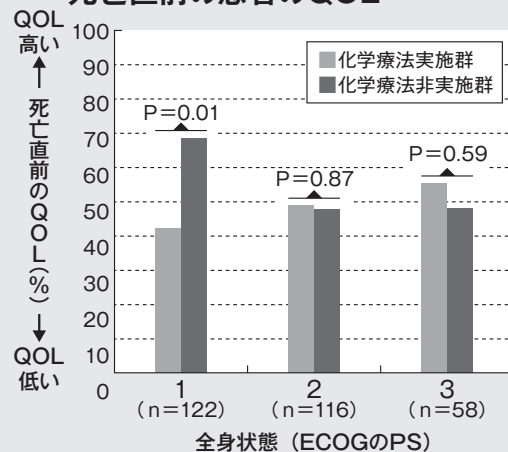
この研究は、2002~2008年に進行がんと診断された患者を対象にしています。当時

《表》 ECOGのPerformance Status

Score	定義
0	全く問題なく活動できる。発病前と同じ日常生活が制限なく行える。
1	肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる（例：軽い家事、事務作業）。
2	歩行可能で自分の身の回りのことはすべて可能だが作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
3	限られた自分の身の回りのことしかできない。日中の50%以上をベッドかいすで過ごす。
4	全く動けない。自分の身の回りのことは全くできない。完全にベッドかいすで過ごす。

と現在では、化学療法に用いられる薬剤や副作用などに対する支持療法、緩和ケアの提供体制など異なる点が多いです。また、アメリカで行われた研究であること、生存期間の延長がなかったと結論づけるには症例数が少なすぎることで、死亡直前のQOLが必ずしも全期間のQOLと一致しないことなどにも注意しなくてはなりません。それでも、本研究の結果は、終末期の無理な化学療法は行わない方が患者にとってその人らしく最期まで過ごせる可能性を十分に示唆していると思います。

《図》 調査開始時点での全身状態 (PS) 別に見た化学療法の有無による死亡直前の患者のQOL



PS0は9人、PS4は7人と少ないためPS別の分析からは除かれている。

引用・参考文献

- 1) Temel JS, Greer JA, Muzikansky A, et al. Early palliative care for patients with metastatic non-small-cell lung cancer. N. Engl. J. Med. Aug 19 2010 ; 363 (8) : 733-742.
- 2) Greer JA, Pirl WF, Jackson VA, et al. Effect of early palliative care on chemotherapy use and end-of-life care in patients with metastatic non-small-cell lung cancer. J. Clin. Oncol. Feb 1 2012 ; 30 (4) : 394-400.